



開かれた大学

4

東京芸術大学音楽学部

小泉文夫記念資料室

音楽資料の蒐集・整理・保存とそのデータベース化

柘植元一

小泉文夫記念資料室（英語名 Koizumi Fumio Memorial Archives）は音楽学部の二号館一階の一室を占めています。ここには主として音楽民族学関連の研究資料が多数所蔵されており、その大半は、故小泉文夫音楽学部教授の手によって蒐集されました。著名な音楽民族学者であった小泉教授は昭和五十八年の夏急逝されましたが、遺族の三枝子夫人は亡夫の蒐集になる音楽資料を、すべて若い人たちの研究に役立てて欲しいと音楽学部へ寄贈されました。

この貴重な研究資料群を、音楽学部教授会は学部内の研究施設「音楽研究センター」を構成する一資料室に位置づけ、昭和六十六年六月六日に「小泉文夫記念資料室」は正式に開設されました。これが小泉文夫記念資料室の発端です。百平米たらずの敷地には、約七百点の楽器、三千四百余枚のLPレコード、千六百六十二本のオープンリール・テープを含めた録音資料、五四冊の書籍と楽譜、および数千点の写真資料がひしめきあっています。狭いスペースながらもここで私たちは研究を始め、昭和六十六・六十七年度には文部省の特定研究費で全

資料の整理保存の研究を行ない、『東京芸術大学音楽学部小泉文夫記念資料室所蔵楽器目録』（一九八七年）を刊行しました。大学者の遺品を大切に整理保管することは、それ自体たしかに大切ですが、私はこれを単に一個人の偉業を顕彰する小ぢんまりとした資料室にとめおかず、むしろ、世界の音楽資料の蒐集や情報交換の研究拠点としてさらに発展させるべきだと考えました。そこで、音楽文化にかかわるあらゆる情報を縦横に駆使して広義の音楽民族学研究をすすめるため、学内に先駆けて、マルチメディア・データベースを導入したアーカイヴズ構築を企てたのです。これこそ所蔵資料が学内外の研究者に活用される道であり、また故小泉教授の遺志でもあると信じるからです。

長い準備期間を経て、平成九・十二年度には、文部省科学研究費補助金によってデータベースのプロトタイプを構築し、平成十年度からWebで試験公開をはじめました。これは小泉教授が世界数十か国で蒐集した録音資料を対象とする「世界音楽データベース」で、録音に関する文字情報の検索は





写真上段：ジャワのガムラン
下段左：インドネシアの楽器グンデル
下段右：アラブとトルコの音楽で使われるウード
右頁上段右：小泉文夫の胸像と資料室で働く研究員

もちろんのこと、一部の録音は試聴も可能ですし、故人の自筆メモなども画像ファイルとして見られます。膨大な録音資料の聴取とデータベース化は今なお進行中ですが、この研究・公開の推進にあたり、文部科学省研究成果公開促進費（平成十三年度）、財団法人ローランド芸術文化財団（平成十四年度）をはじめ、これまで学内外から多くの研究助成をいただきました。

当資料室の魅力のひとつは、手にとって試奏できる楽器展示にあるでしょう。学外観覧者の大半は、楽器をめざして来室されます。最近では「総合的な学習の時間」を利用して来室する中・高校生が増え、未知の楽器に目を輝かせる生徒たちの姿もめだちます。なおこれらの所蔵楽器目録はWebでも公開しています。

学内外に公開された研究機関として、当室の果たす役割は今後ますます広がりを増すでしょう。Webによる情報公開のさらなる充実をめざしながら、世界音楽に関心をもつ方々に、幅広く活用していただけるよう願ってやみません。

（つげ・げんいち／音楽学部楽理科教授・小泉文夫記念資料室室長）

